

子ども向けアンケート 調査結果

1 調査概要

(1) 目的

心のバリアフリーに関する用語やサインの認知度、実施状況を把握するために実施する。

(2) 調査概要

調査内容	・用語の認知度 ・困っている人への手助けの経験、心のバリアフリーの取組への意見 ・心のバリアフリーに関するマーク、サインの認知度
調査期間	令和6年10月中旬～11月上旬
調査方法	紙配布、紙回収
回答数	297件 梅若小学校 57名、中川児童館 93名、江東橋児童館 66名、興望館 81名

(3) 集計上の留意事項

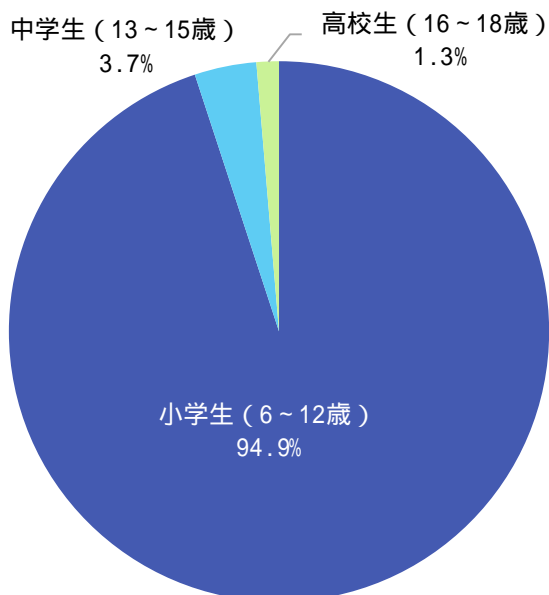
- ・「N」は有効回答数を表し、グラフは「N」をもととした百分率（％）で示す。
- ・百分率（％）の表示は、小数第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100％にならない場合がある。
- ・複数回答の設問では【複数回答】と表記しており、比率の合計が100％を超える場合がある。
- ・単純回答欄に複数の回答が記載されていた場合は、番号の若い選択肢を選択したものとする。
- ・図表中の選択肢の表記について、語句などを一部簡略化している場合がある。

2 調査結果

Q 1 みんなの学年を教えてください。

小学生が9割以上を占めている。

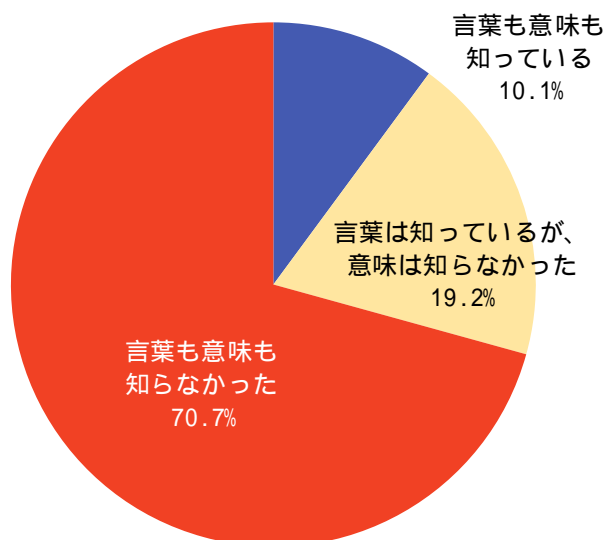
N=297



Q 2 このアンケートに答える前から「心のバリアフリー」という言葉を知っていましたか。

「言葉も意味も知っている」は1割程度にとどまっており、「言葉も意味も知らなかった」が7割以上となっている。

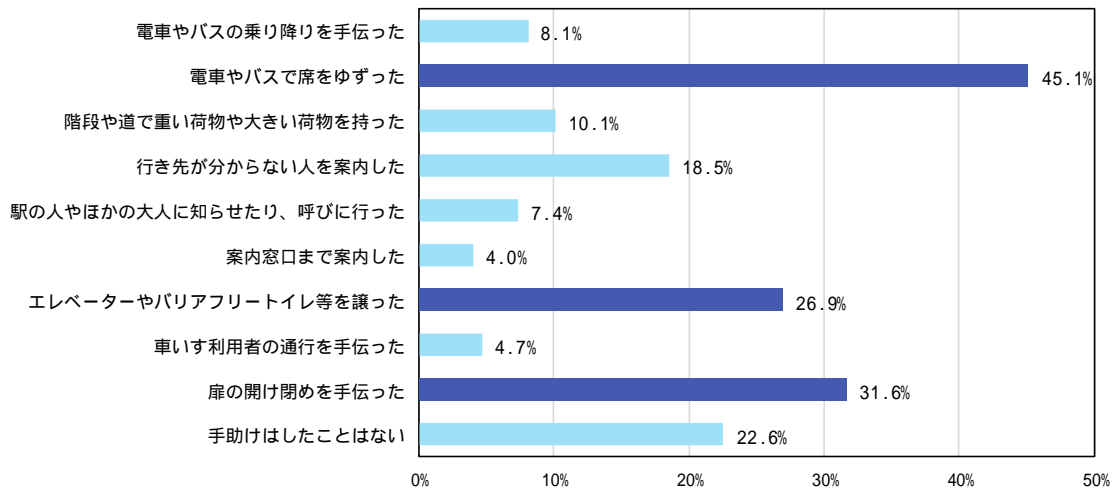
N=297



Q 3 外出時に、次のような困っている人などを手助けしたことはありますか。

「電車やバスで席をゆずった」がもっとも多く4割以上、次いで「扉の開け閉めを手伝った」「エレベーターやバリアフリートイレ等をゆずった」となっている。

N=297



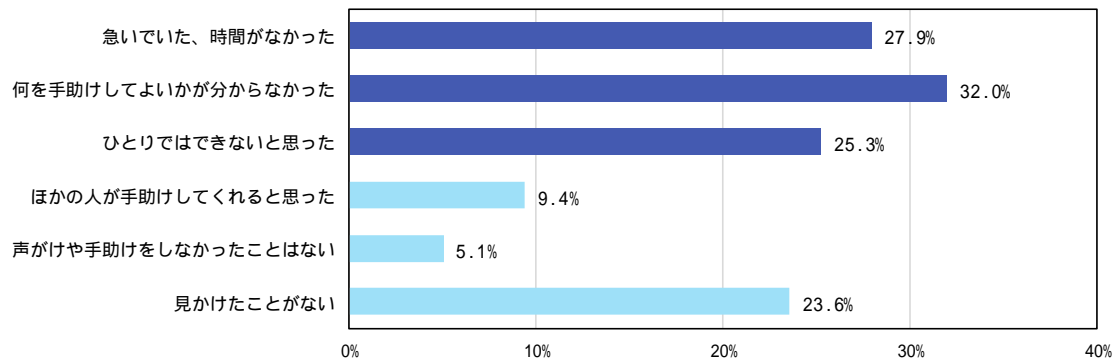
その他の具体的な内容

- ・おじいちゃんが座りたいのにみんなに座られていたので譲った。
- ・おなかに赤ちゃんがいる人に席を譲った。
- ・骨折しているひとに席を譲った。
- ・エレベーターで乗る人がはいれなさそうだから譲った。
- ・エレベーターの開くボタンを押した。
- ・エレベーターに乗るのを手伝った。
- ・バスで落としたものが見えない人がいて拾ってあげた。
- ・ここに落とし物がありますと言った。
- ・お年寄りの杖を拾った。
- ・落とし物に気づいて渡しに行った。(2件)
- ・おばあさんが財布を落とした時拾った。
- ・信号が見えにくいと言っていたので信号が青ということを伝えた。
- ・自転車に乗っているお年寄りの人が倒れていたのを友達と助けました。
- ・お年寄りの人が転んでしまったから妹とお母さんと私で助けた。(見かけた人も)
- ・エレベーターで乗り降りしようとしている人がいる時にドアを開けた。
- ・荷物で手がふさがっている人のためにドアを開けてあげた。
- ・電車に乗っている時白杖を持っている人を見かけたので声をかけてみた。
- ・自転車の人が困っていたから譲りました。
- ・倒れていた自転車を起こした。
- ・自転車が倒れている時にもどした。
- ・スーパーでスマホを忘れていたので伝えた。
- ・漢字の分からないところを教えた。

Q 4 困っている人などの手助けができなかったことはありますか。その理由を教えてください。

「何を手助けしてよいか分らなかった」がもっとも多く3割程度、次いで「急いでいた、時間がなかった」「ひとりではできないと思った」となっている。

N=297



その他の具体的な内容

- ・私がドアの前にいたから開けてあげた。
- ・自信がなかった。
- ・道を教える時に道を知らなかったから。
- ・勇気がなかった。
- ・話しかけるのに緊張した。
- ・少し恥ずかしかった。
- ・怖かった、どこが悪いのか分らなかった。
- ・出来なかったらどうしようとの心配があったから。
- ・何かしらの目的があると思ったから。
- ・どこに行きたいのか聞けなかったから。
- ・とても疲れていた。
- ・ママに大丈夫って言われた。
- ・知らない人に連れていかれるかも。
- ・お母さんに知らない人には何もなくていいと言われているから。
- ・他に助けている人がいた。
- ・障害者の方どう接すればいいか分からない。
- ・今までは自分が助けてもらう側だった。
- ・あまり困っている人を見ることがない。

その時の様子

- ・電車、バスで高齢者が座れずに立っていた。(複数回答)
- ・手伝っていいのか分らなかった。一人でできないと思った。(複数回答)
- ・遊びに行くときにおばあちゃんが駅はどこと言っていた。
- ・ヘルプマークを付けている人が電車で立っていた。
- ・電車で車いすスペースに人が立っていて、車いすの人が乗れなかった。
- ・杖を持ったおじいさんが転んでいた。急いでいて助けられなかった。
- ・習い事で急いでいたから。
- ・あまり障害に詳しくなく、邪魔しない方がいいと思った。
- ・なんと声をかけていいか分らなかった。
- ・目が視えない人がウロウロしていて助けたいと思ったけど、私は何をすればいいか分からなくて結局何もできないまま他の人が来て助けてもらっていたので罪悪感があった。
- ・保育園で着替えることができなかった子どもがいた。

Q 5 心のバリアフリーを子どもから大人まで広げていくためにどのようなことが必要だと思いますか。

回答者のうち、157 名から以下の回答があった。

回答内容は、日常生活で目にする場面や SNS での周知啓発、助け合いや思いやりを促すものが多くみられた。

回答内容

【周知・啓発】

- ・地域の人が見る掲示板や街中に心のバリアフリーのポスターを貼る。(複数回答)
- ・店内にポスターを貼る。
- ・チラシで知らせる。困った人を助けるというチラシを貼る。(複数回答)
- ・ポケットティッシュマークを入れて配る。
- ・シンボルマークを色んなところに貼ってバリアフリーのことを書く。
- ・シンボルマークのところに意味を書く。
- ・墨田区のホームページで知らせる。学校で広める。全校朝会で伝える。(複数回答)
- ・小学校・中学校など学生は授業等で言葉の意味を理解し、実技授業を通して日常でも行えるようにする。
- ・自治体が行っているところをテレビなどで宣伝する。
- ・Youtube の広告で流すようにする。(複数回答)
- ・yahoo などでもクイズを作ったり、有名な Youtuber に宣伝してもらおう。実体験ができる施設を作る。
- ・「心のバリアフリー」を知らないという人がいなくなるように広告で知ってもらおう。
- ・心のバリアフリーの日を作る。
- ・友達や自分よりも小さい子供に教える。
- ・このアンケートをたくさん配る。「心のバリアフリー」という言葉をもっと広めていくために、このアンケートをみんなで作る。(複数回答)
- ・もっと幅広い世代に「心のバリアフリー」という単語を理解してもらう必要がある。
- ・SNS を活用して広範囲に広めたり、バリアフリーのイベントを開けばもっとみんなに伝えられると思う。

【助け合い・譲り合い】

- ・子どもから大人まで困っていたらすぐかけつける、目の前に困っている人がいたら助ける。勇気を振り絞って言う。
- ・お年寄りの人や妊婦さんに席を譲る。(複数回答)
- ・みんなであいの手伝いをする。親切にする。手伝ったりする。(複数回答)
- ・みんなが思いやりをもつ。優先するのが必要。(複数回答)
- ・お年寄りの方は障害がある人が大変そうにしていたら助けたり、話しかけてみる。
- ・色んな人で手助けをして、自分もしなきゃって思ってもらおう。
- ・ヘルプマークを反射板や大きくして分かりやすくする。
- ・人のことを考えて行動する。
- ・おじいさんとかに優しくした方が良いと思う。

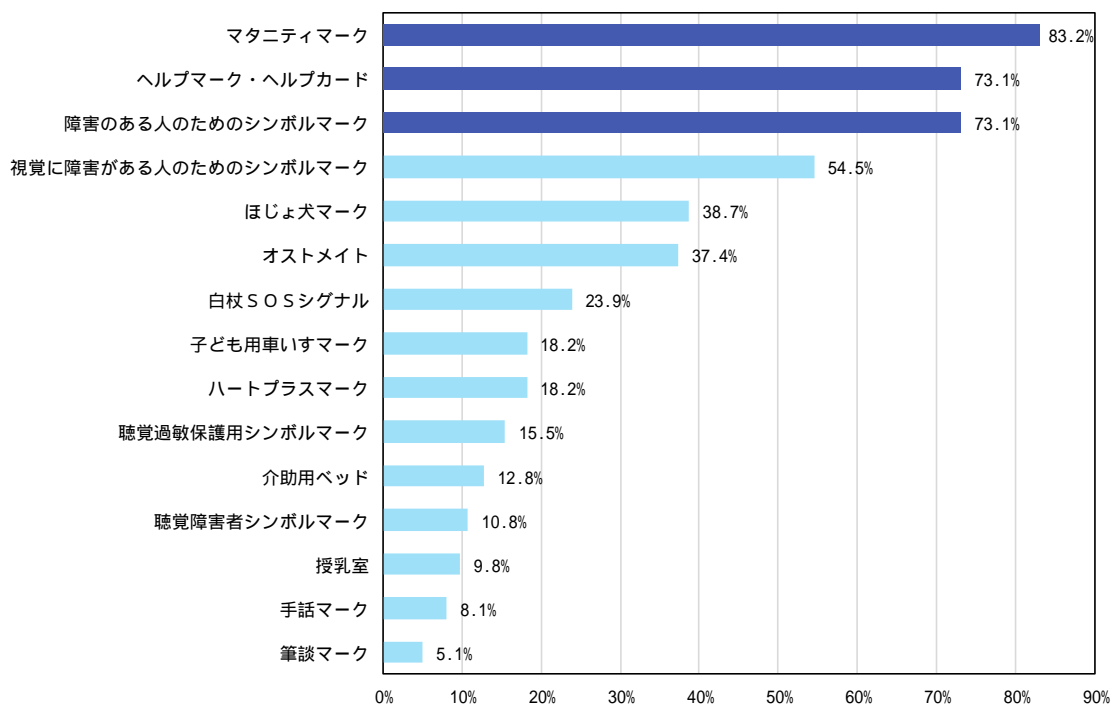
【整備・その他】

- ・点字ブロックをあちこちに作る。(複数回答)
- ・エレベーターを多く作ったほうが良い。
- ・近くの人に知らせる。

Q 6 次のバリアフリーのサインやマークのうち、意味を知っているものに○をしてください。

「マタニティマーク」は 8 割以上、「ヘルプマーク・ヘルプカード」「障害のある人のためのシンボルマーク」は 7 割以上の認知度となっている。

N=297



マタニティマーク		オストメイト		介助用ベッド	
ヘルプマーク・ヘルプカード		白杖 S O S シグナル		聴覚障害者シンボルマーク	
障害のある人のためのシンボルマーク		子ども用車いすマーク		授乳室	
視覚に障害がある人のためのシンボルマーク		ハートプラスマーク		手話マーク	
ほじょ犬マーク		聴覚過敏保護用シンボルマーク		筆談マーク	